

海外短信



尹 基老*

がんばれ、日本！

まず始めに、東北・関東大震災の犠牲者の皆さんに対して、謹んでお悔やみ申し上げます。早急に被災が復興されることをお祈り申し上げます。

自然の恐怖

2011年3月11日、シー大からの留学生との定期的な集まりが終わったあと、自宅に帰ってテレビをつけた途端、東北地方での未曾有の大地震と津波が襲来した悲惨な画面を目にして、驚愕を禁じえませんでした。すぐにNHKチャンネルを回しました。建物の激しい揺れや、10メートル以上もある真っ黒な大津波が船を転覆させ、防波堤を飛び越える恐ろしい光景、建物、自動車、瓦礫などがばらばらになり町と畑に押し寄せてくるニュースに驚きました。傍にいた家内は、固唾を呑んでテレビを見守りながら、涙を流していたのです。その夜遅く、東京や長崎などの知人に電話を掛け安否を確認しました。

どうしてこのような悲劇が起こったのでしょうか。普通、水というものは高い方から低い方へ流れるのが自然の法則です。水が海から山に逆流する厳然な事実を目の当たりにしました。

何十万人の避難民が電気もなく暗くて狭い避難所で、水も食料も不足した寒さの中、生き地獄のような生活をしている姿を見て、私は60年あまり前の朝鮮戦争時の避難生活を思い出し涙を流しました。泣き面に蜂のように、どうして大雪と寒さも重ね重ね被災者を苦しめるのでしょうか。幼い時の朝鮮戦争の避難生活にも、大雪と寒さの辛さを感じた私は、誰よりも避難民の苦しさを自分のことのように実感したのです。

日が経つに連れて、地震、津波そして原子力発電所の破損による放射線の漏洩までもが発生し、私はこれをトリプルの被害だと痛ましい思いをしたのです。

世界が賞賛する日本人の国民性

私だけではなく、全世界の人々が今度の大地震にあたり日本の国民が冷静沉着でお互いに協調して助け合い、秩序整然に災難に対応する姿に賞賛の意を表明しています。

生活必需品が不足しても、略奪も起こらず、スーパーやガソリンスタンドの前には数百メートルの行列ができて誰も誰一人割り込みをすることもなく、道路が崩壊し通行止めになった町では、今でも市民たちが青信号を待って道路を横

* 県立シーボルト大学名誉教授、長崎県立大学リエゾンオフィサー

断しているというニュースに接したし、計画停電を行うというニュースも耳にして、1970年代始めのオイルショックによって節電を呼びかけた際、いつもは賑やかな銀座の繁華街なども、真っ暗になっていたことを思い出しました。この大震災に際し、危機に陥っても冷静沈着で秩序をきちんと守る日本人の国民性に改めて感動しました。私ならば、日本人の人々のような行動が出来るでしょうか。

日本に関心を抱く日本の研究者が始め必ず読む本の1つに、ルース・ベネディクトの『菊と刀』という本があります。彼女は、「日本人は他人が自分をどう見ているかに敏感だ。」といち早く喝破しました。他人に配慮し、自分は節制する修身文化を持っているのが日本の国民でしょう。私が長崎で講義を行っていた時のことです。講義が終わってすぐに、質問をする時間を学生に与えたのですが、誰1人質問を行った学生はいませんでした。また、逆に私が質問をしても答える学生はいませんでした。そのため、学生たちはちゃんと授業を聞いていないのではないかと思いましたが、その後のレポートはみんな立派なものを書いていました。私はその疑問が今度の震災にあたった日本人の人々の対応を見ても分かりました。つまり、他人に配慮し、自分が目立とうとはしない日本人の立派な国民性だということです。

「他人に迷惑をかけてはいけない」地下鉄の中で足を組んだり伸ばしたり、新聞を大きく広げて読んだりするのは、他人に迷惑をかけるとして日本人は自律的に守っているのです。日本人のこのような忍耐と秩序を「人類精神の進化」と世界の外信が賞賛しています。

韓国国民の分かち合い

私が日本の災害にあたって驚いたのは、韓国の人々が日本に対するその痛みと苦楽を分かち合う光景を目の当たりにしたことです。

垣根を挟んでいる韓国の人々が、日本の被災に対して同情するのは当たり前だと思いました。しかし、日本の植民地時代、独立運動を行った人々の後裔、毎週水曜日に日本大使館の前で反日デモを定期的に行っている元慰安婦の女性たちも、未曾有の被害に遭った日本に対し、「人道主義的な立場から傍観するわけにはいかない」と語り、積極的に募金運動に加わっています。7歳の幼い子どもから学生、会社員、一般市民、韓流スター、スポーツ選手など、全韓国国民が日本の募金キャンペーンに参加しています。2011年3月28日現在、2週間で350億ウォン(当時のレートで約25億6293万円)を突破したということです。また、テレビの画面上には、ARS(電話による募金)の番号が常に表示されています。

以上のように、日本の被災者のための募金キャンペーンが行われるさなか、独島(竹島)は日本の領土だという日本の教科書の検定結果発表が予定されているというニュースが流されました。私個人では、日本の教科書検定結果発表を当分の間、先送りする程度は望んでいました。しかし、日本の教科書と震災支援とは分けて対処するという韓国の人々の成熟した意識に、もう1度私は驚きました。

終わりに

原子力発電所の崩壊による放射線の漏洩で、韓国各地でも放射線が検出されています。真の未曾有の大災難でしょう。人間の力で自然を克

服するということは、難しいことだと思いません。英国の歴史学者アーノルド・トインビは、「人類の文明は挑戦に対する応戦で発展する」と述べました。日本は、かつて自然災害によって大きな被害を受けたことがあります。これに対し成功的な応戦によって世界唯一の国に成長したわけであります。今度も私は日本の底力を信じています。

がんばれ、日本！